

「令和3年度やまなし産学官連携交流事業研究発表会」WEB公開中

山梨大学、山梨県との共同により県内に中小企業が大学や公設県有試験機関と連携して研究成果を県内企業のみなさまにご活用いただくため、研究内容、技術について発表を行う「やまなし産学官連携研究交流事業」が、令和3年10月29日(金)から令和4年3月31日(木)まで、オンラインで開催されています。

同交流事業は一昨年までベルクラシック甲府で開催されてきましたが、昨年度はコロナ渦のため、同会場での開催を断念し、動画閲覧サイトを開設して実施させていただきました。

今年度につきましても、新型コロナの状況が、8月のピークから感染者数の大幅な減少が続き、県内ではほぼ沈静化してはいるものの、今後、第6波が懸念される中、昨年開設した動画閲覧サイトを活用して、昨年と同様PCやスマートフォンなどから閲覧可能なオンラインでの開催となりました。

さらに、今年度は閲覧した研究について直接研究者から話を聞きたい等の希望がある場合は、本学で直接研究者との面談ができる場を令和3年12月7日(火) 大村記念学術館大村記念ホールにて設けております。

今回の特別講演は、山梨大学URL・社会連携センター長の吾妻勝浩氏の「知財を活用した中小企業の新ビジネス創生」についてです。ビジネスを推進する上で、事業戦略や研究開発戦略、知財戦略は重要となりますが、本講演では、知財戦略の一機能となる知財活用の有効性や地域の関係者がコミットした支援の仕組みになどについても事例を交えてわかりやすく解説しています。

今年度エントリーしているコンテンツは、山梨大学20件、山梨県が14件の合計34件となっています。また、本サイトでは昨年公開しました36件のコンテンツにつきましても、閲覧が可能となっていますので、多くのコンテンツから皆さんがご興味のある研究や新たなヒントを見つけることができるのではないのでしょうか。

視聴には登録が必要ですが、入場無料となっていますので是非ご登録いただき、産学官連携につながる技術等の収集の場としてご活用ください。



【サイトトップページ】

【研究動画数】

	2020年度	2021年度	合計
山梨大学	20件	20件	40件
山梨県	16件	14件	30件
合計	36件	34件	70件

【やまなし産学官連携交流事業サイトURL】

<https://yamanashi-veh.jp/>

山梨大学新技術説明会を開催しました

令和3年12月2日(木)、本学とJSTが主催の「山梨大学 新技術説明会」をWEB開催しました。新技術説明会は、特許庁、関東経済産業局の後援の下、本学とJSTとの共同で主催し、研究成果である新技術(特許)を実現させることを目的とし、研究者自らが直接プレゼンする特許の説明会です。

今年もコロナ禍の影響を受けWEB開催となりましたが、本学からは、4名が、4件の新技術をベースとした本学の研究シーズの発表を行いました。

生命環境学域の川上隆史助教の「ペプチド医薬品開発・ペプチド化合物探索のための新規ペプチド環状化法」、工学域の豊浦正広准教授の「織物パターンデザインのための人工知能と画像処理」、工学域クリスタル科学研究センターの丸山祐樹助教の「リチウムイオン伝導性酸化物バルク単結晶育成技術の開発」、医学域人体病理学の川井将敬臨床助教の「熟練度評価を加味した皮膚病勢スコアリングAIアプリ」について各々発表しました。

発表内容につきましては、年明けあたりから新技術情報クラブホームページ(https://shingi.jst.go.jp/list/list_2021/2021_yamanashi.html)より発表資料等をご覧いただけるようになりますので、ぜひご覧になってください。

この説明会を発端に産学連携が進み、本学の研究成果の実用化へつながるよう推進していきたいと思っております。



【オンライン開催の様子】

工学部 基礎教育センター 井上 久美 准教授

今回は、井上久美先生を紹介いたします。

井上先生は、基礎教育センターのご所属ですが、正式には、大学院総合研究部・工学域・土木環境工学系(基礎教育センター) となります。

京都大学農学部農芸化学科を卒業され、東北大学大学院環境科学研究科博士課程を修了されました。山梨大学には2020年8月に赴任されて本日に至っております。

先生のご研究範囲は、一言で申しますと「バイオセンサ・バイオセンシング技術の開発」という事になりますが、生体中の様々な機能から派生する化学物質等をセンシングすることで、新しい医療・健康の世界を実現するデジタルヘルスビジネスの提供をするものです。

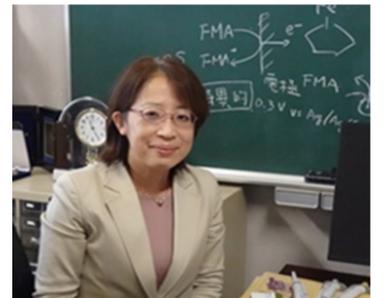
皆様の身近にある機器等へ応用可能ではないかと思いますが、来る年明けの1月25日火曜日予定で、アカデミックサロンを開催して井上先生のお話を聞く企画をしておりますので、ぜひ直接先生から伺ってみたいとは思いますが、いかがでしょうか。

いくつか既に試作に至っているようですが少しご紹介いたします。

たとえば、糖尿病になりますと尿にたんぱくが漏れ出てくるのですが、従来法では色変化する検査紙の色により検定しております。しかし、尿タンパクセンサを使用すれば数値として評価できますので、医療のDX化にマッチします。先生の開発ではトイレに設置して常時計測できるそうです。また、最近のご研究では細胞と細胞の間で行われる細胞間コミュニケーションを化学物質の可視化により理解する技術に取り組みおられまして、将来的には脳の中でどのような情報移動が行われるかが目で見える装置開発へ期待されております。

山梨大学には、文科省採択の卓越研究拠点として2021年に創設された「山梨GLIAセンター」がありまして、脳の各種細胞機能、脳と免疫等末梢組織の機能に深くかかわるグリア細胞を研究しておりますが、井上先生はこのセンターとも連携して様々な未知機能の解明に挑戦していくこととなります。

最後に井上先生の特技を紹介いたしますと、「利き醤油」だそうでした、お寿司屋さんに入ると真っ先に醤油の官能検査をされるそうです。先生は、京都大学ご卒業後に宮城県内で一時期しょうゆのJAS検査員として勤務のご経験がおありで、そのキャリアが私生活でも活かされているという事です。



【井上久美准教授】

新技術情報クラブ報告

新技術情報クラブ令和3年度第二回交流会を開催しました

本クラブの令和3年度第二回交流が、令和3年10月26日(火)に大村記念ホールにて開催されました。今回はコロナ禍もやや下火となる中、万全のコロナ対策を取ったうえでリアルに開催されました。当日は本学教員2名による講演を行い、お忙しいなか法人会員2社3名、個人会員6名の合計9名の皆様のご参加を頂きました。

まず、工学部コンピューター理工学科の木下雄一朗准教授が「ユーザの感性のモデル化と感性情報システムへの応用」と題し、先生が取り組まれた感性工学の中のデザイン支援を中心に講演がありました。特に人間の感性(気持ち、イメージ、思い出など)の情報を活用した感性情報処理、また、ユーザの感性をモデル化し、情報システムに取り組むことで人工物を自動設計する感性アプリケーションについてお話を頂きました。

続いて、生命環境学部環境科学科の亀井樹助教が「水素ガスを利用した水再生技術」と題し、特に水素を使った水の浄化技術、水をきれいにする研究、窒素除去技術(排水・飲料水)、また開発途上国における浄水事業の取り組み等についてなどをお話いただきました。各講演終了後の講演者との質疑応答では、久々のリアル開催という事もあり、会員様より活発なご質問をいただき、盛会裏に終了いたしました。

また、今回は大村記念ホールにて開催されたため、交流会終了後、多くの会員様に大村智記念学術館も併せて見学していただきました。

今後も会員の皆様のニーズをくみ取る中、有意義な交流会となるべく努めていく所存です。また、今後の運営方法やテーマ等に関する皆様方のご意見、ご提言をお待ちしております。



【講演をする木下先生】



【講演をする亀井先生】